

## 【診療報酬改定(続報) 医療DX推進体制整備加算等】

- 2024年6月の診療報酬改定の際に新設された「医療DX推進体制整備加算等」の見直しについての厚生労働大臣の諮問に対し、中医協が答申を行いました。
  - 医療DX推進体制整備加算
  - 医療情報取得加算
- なお、詳細(最終確定)につきましては、中医協及び厚生労働省の関係資料をご参照ください。

### 医療DX推進体制整備加算

#### 【令和6年6月～9月】

- 医療DX推進体制整備加算 8点
- 医療DX推進体制整備加算(歯科) 6点
- 医療DX推進体制整備加算(調剤) 4点

※初診時に所定点数を加算

[施設基準(医科医療機関)](要旨)

～中略～

(6)マイナンバーカードの健康保険証利用について、実績を一定程度有していること(令和6年10月1日から適用)

#### 【令和6年10月～】

- 医療DX推進体制整備加算1 11点
- 医療DX推進体制整備加算1(歯科) 9点
- 医療DX推進体制整備加算1(調剤) 7点

[施設基準(医科医療機関)](要旨)

(6)マイナンバーカードの健康保険証利用について、十分な実績を有していること

(新)マイナポータル<sup>1</sup>の医療情報等に基づき、患者からの健康管理に係る相談に応じること

- 医療DX推進体制整備加算2 10点
- 医療DX推進体制整備加算2(歯科) 8点
- 医療DX推進体制整備加算2(調剤) 6点

[施設基準(医科医療機関)](要旨)

(6)マイナンバーカードの健康保険証利用について、必要な実績を有していること

(新)マイナポータル<sup>1</sup>の医療情報等に基づき、患者からの健康管理に係る相談に応じること

- 医療DX推進体制整備加算3 8点
- 医療DX推進体制整備加算3(歯科) 6点
- 医療DX推進体制整備加算3(調剤) 4点

[施設基準(医科医療機関)](要旨)

(6)マイナンバーカードの健康保険証利用について、実績を有していること

#### マイナ保険証利用率(案) (注)利用率は通知で規定

利用率実績	令和6年7・8月～	令和6年10・11月～
適用時期	令和6年10月～	令和7年1月～
加算1	15%	30%
加算2	10%	20%
加算3	5%	10%

※適用時期の3月前のレセプト件数ベースマイナ保険証利用率を用いる。ただし、令和6年10月～令和7年1月は、適用時期の2月前のオンライン資格確認件数ベースマイナ保険証利用率を用いることもできる

※令和7年4月以降のマイナ保険証利用率の実績要件は、附帯意見を踏まえ、本年末を目途に検討、設定

### 医療情報取得加算

#### 【令和6年6月～11月】

- 初診時 医療情報取得加算1(現行の保険証の場合) 3点
- 医療情報取得加算2(マイナ保険証の場合) 1点

再診時 (3月に1回に限り算定)

- 医療情報取得加算3(現行の保険証の場合) 2点
- 医療情報取得加算4(マイナ保険証の場合) 1点

調剤時 (6月に1回に限り算定)

- 医療情報取得加算1(現行の保険証の場合) 3点
- 医療情報取得加算2(マイナ保険証の場合) 1点

#### 【令和6年12月～】

- 初診時 医療情報取得加算 1点

再診時 (3月に1回に限り算定)

- 医療情報取得加算 1点

調剤時 (12月に1回に限り算定)

- 医療情報取得加算 1点

(出所):中医協 総—9 答申について「医療DX推進体制整備加算及び医療情報取得加算の見直し」(2024/7/17)を基に SMBC日興証券ソリューション・アドバイザー一部作成

本資料は当社が信頼できると判断した情報源から入手した情報に基づいて作成されていますが、明示、黙示に関わらず内容の正確性あるいは完全性については保証するものではありません。また、本資料は有価証券の取引その他の取引の勧誘を目的としたものではありません。実際の取引等をご検討の際には、今後の制度改正の動きに加え、具体的な実務動向や法解釈の動き等に留意いただき、所轄の税務署や、弁護士、公認会計士、税理士等の専門家にご相談の上、お客様の最終判断をもって行っていただきますようお願い致します。本資料は、別段の表示のない限り、その作成時点に施行されている法令に基づき作成したものです。将来、法令の解釈の変更や制度の改正、新たな法令の施行等がなされる可能性があります。なお、本資料とその記載内容につきましては、第三者に対してその全部または一部のコピーを作成したり、配布されませんようお願い致します。

## 金融商品取引法第 37 条(広告等の規制)にかかる留意事項

本資料は、法制度/税務、自社株評価、相続/事業承継、株主対策/資本政策、オフリング、M&A/IPO、年金/保険等の諸制度に関する紹介や解説、また、これに関連するスキーム等の紹介や解説、およびその効果等に関する説明・検証等を行ったものであり、金融商品の取引その他の取引の勧誘を目的とした金融商品に関する説明資料ではありません。記載の内容にしたがって、お客さまが実際にお取引をされた場合や実務を遂行された場合の手数料、報酬、費用、その他対価はお客さまのご負担となります。なお、SMBC日興証券株式会社(以下「当社」といいます)がご案内する商品等へのご投資には、各商品等に所定の手数料等をご負担いただく場合があります。たとえば、店舗における国内の金融商品取引所に上場する株式等(売買単位未満株式を除く)の場合は約定代金に対して最大1.265%(ただし、最低手数料5,500円)の委託手数料をお支払いいただきます。投資信託の場合は銘柄ごとに設定された各種手数料等(直接的費用として、最大3.30%の申込手数料、最大4.50%の換金手数料または信託財産留保額、間接的費用として、最大年率3.64%の信託報酬(または運用管理費用)およびその他の費用等)をお支払いいただきます。債券、株式等を募集、売出し等または相対取引により購入する場合は、購入対価のみをお支払いいただきます(債券の場合、購入対価に別途、経過利息をお支払いいただく場合があります)。また、外貨建ての商品の場合、円貨と外貨を交換、または異なる外貨間での交換をする際には外国為替市場の動向に応じて当社が決定した為替レートによるものとします。上記手数料等のうち、消費税が課せられるものについては、消費税分を含む料率または金額を記載しています。

本資料は、当社が信頼できると判断した情報源から入手した情報に基づいて作成されていますが、明示、黙示にかかわらず内容の正確性あるいは完全性について保証するものではありません。また、別段の表示のない限り、その作成時点において施行されている法令に基づき作成したものであり、将来、法令の解釈が変更されたり、制度の改正や新たな法令の施行等がなされる可能性もあります。さらに、本資料に記載の内容は、一般的な事項を記載したものに過ぎないため、お客さまを取り巻くすべての状況に適合してその効果等が発揮されるものではありません。このため、本資料に記載の内容にしたがって、お客さまが実際に取引をされた場合や実務を遂行された場合、その期待される効果等が得られないリスクもあります。なお、金融商品の取引その他の取引を行っていただく場合には、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の価格の変動等および有価証券の発行者等の信用状況(財務・経営状況を含む)の悪化等それらに関する外部評価の変化等を直接の原因として損失が生ずるおそれ(元本欠損リスク)、または元本を超過する損失を生ずるおそれ(元本超過損リスク)があります。なお、信用取引またはデリバティブ取引等(以下「デリバティブ取引等」といいます)を行う場合は、デリバティブ取引等の額が当該デリバティブ取引等についてお客さまの差し入れた委託保証金または証拠金の額(以下「委託保証金等の額」といいます)を上回る場合があると共に、対象となる有価証券の価格または指標等の変動により損失の額がお客さまの差し入れた委託保証金等の額を上回るおそれ(元本超過損リスク)があります。また、店頭デリバティブ取引については、当社が表示する金融商品の売り付けの価格と買い付けの価格に差がある場合があります。上記の手数料等およびリスク等は商品ごとに異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面や目論見書またはお客さま向け資料等をよくお読みください。なお、目論見書等のお問い合わせは当社各部店までお願いいたします。また、実際の取引等をご検討の際には、個別の提案書等をご覧いただいた上で、今後の制度改正の動きに加え、具体的な実務動向や法解釈の動き、およびお客さまの個別の状況等に十分ご留意いただき、所轄の税務署や、弁護士、公認会計士、税理士等の専門家にご相談の上、お客さまの最終判断をもって行っていただきますよう、お願い申し上げます。

商号等：SMBC日興証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2251号

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、

一般社団法人金融先物取引業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会、  
一般社団法人日本STO協会

(2023年9月30日現在)



SMBC日興証券

いっしょに、明日のこと。

Share the Future